

<特集「受動表現」「アスペクト」「モダリティ」「ヴォイスとその周辺」「所有・存在表現」「他動性」「連用修飾複文」「情報構造と名詞述語文」「情報構造の諸要素」「否定、形容詞と連体修飾複文」>

英語：

特集補遺データ「受動表現」「アスペクト」「モダリティ」「ヴォイスとその周辺」「所有・存在表現」「他動性」「連用修飾複文」「情報構造と名詞述語文」「情報構造の諸要素」「否定、形容詞と連体修飾複文」

English:

‘Passive expression’, ‘Aspect’, ‘Modality’, ‘Voice and related expressions’, ‘Expressions of possession and existence’, ‘Transitivity’, ‘Complex sentences of adverbial modification’, ‘Information structure and nominal predicate sentences’, ‘Markers of information structure’ and ‘Negation, adjectives, and complex sentences of adnominal modification’

風間 伸次郎  
Shinjiro Kazama

東京外国語大学大学院総合国際学研究院  
Tokyo University of Foreign Studies

**要旨：**本稿は特集補遺「受動表現」「アスペクト」「モダリティ」「ヴォイスとその周辺」「所有・存在表現」「他動性」「連用修飾複文」「情報構造と名詞述語文」「情報表示の諸要素」「否定、形容詞と連体修飾複文」(『語学研究所論集』第14-23号, 2009-2018, 東京外国語大学)に寄与するものである。

**Abstract:** This report contributes to the special cross-linguistic study on ‘Passive expression’, ‘Aspect’, ‘Modality’, ‘Voice and related expressions’, ‘Expressions of possession and existence’, ‘Transitivity’, ‘Complex sentences of adverbial modification’, ‘Information structure and nominal predicate sentences’, ‘Markers of information structure’ and ‘Negation, adjectives, and complex sentences of adnominal modification’ (*Journal of the Institute of Language Research* 14-23, 2009-2018, Tokyo University of Foreign Studies).

**キーワード：**受身、アスペクト、モダリティ、ヴォイス、所有、存在、他動性、複文、連用修飾複文、情報構造、名詞述語文、否定、形容詞、連体修飾複文

**Keywords:** passive, aspect, modality, voice, possession, existence, transitivity, complex sentence, adverbial modification, information structure, nominal predicate, negation, adjectives, adnominal modification

## 0. はじめに

本稿のデータは6-12歳の言語形成期をアメリカのカリフォルニア州ロサンゼルスで過ごされた英語と日本語のバイリンガルの方(1998年日本生まれ)に依頼し、日本語のアンケート例文から英語に訳していただいたものである。なお文によっては、このコンサルタントの内省について注記がある(風間によるものではない点に注意されたい)。[ ]は日本語の表現に対応した訳が難しい場合に、その意図を伝えるもの、いわば意識の表現であることを示している。{ }は参考のために異なった語彙などを用いた別個の表現をあげたものである。なお査読の方からいただいたコメントを本稿に記したのは風間である。



本稿の著作権は著者が保持し、クリエイティブ・コモンズ 表示 4.0 国際ライセンス(CC-BY)下に提供します。  
<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/deed.ja>

英語そのものについてデータが得られ、他言語との対照的観点ならびに言語類型論的な観点からの分析を行うことができるようになることが極めて重要であることは論を俟たないだろう。他方で、英語のデータを媒介言語として用い、これをアンケート例文として用いれば、ヨーロッパの諸言語、アフリカ東部の諸言語、オーストラリア先住民語やパプア諸語、北米先住民の言語などを調査する際にも大きな助けとなる。今後このアンケート例文を用いてこうした言語のデータが集まることを期待したい。

## 1. 「受動表現」(語研論集 第14号)

### 1-1 AはBに叩かれた。【直接受身】

Andy was hit by Bob.

### 1-2 AはBに足を踏まれた。【持ち主の受身、体の部分】

Andy's foot was stepped on by Bob.

Andy had his foot stepped on by Bob.

{Andy was hit by Bob in his arm.}

3つ目の文は、「AはBに腕を叩かれた。」の訳である。“hit 人 in the 身体部位”の構文は受身形にすることができるが、「足を踏む」を“step on 人 in the foot”とする表現は恐らくないと思われる。

### 1-3 AはBに財布を盗まれた。【持ち主の受身、持ち物】

Andy's wallet was stolen by Bob.

Andy had his wallet stolen by Bob.

### 1-4 昨日の夜、私は赤ん坊に泣かれた。それでちっとも眠れなかった。【自動詞からの間接受身】

[Last night, the baby cried. So, I couldn't sleep at all.]

?Last night, the baby cried on me. So, I couldn't sleep at all.

下の文は、内省では可能な表現だが、“cry on 人”が辞書などで見当たらないので Corpus of Contemporary American English (以下 COCA とする) で“cry on me”で調べたところ5例が見つかった。「泣く」は一般的に受身的に訳すことができないとされている。

### 1-5 新しいビルが(Aによって)建てられた。【モノ主語受身、一回的】

A new building was built (by Andy).

### 1-6 カナダではフランス語が話されている。【モノ主語受身、恒常的。動作主が問題にならない場合】

French is being spoken in Canada.

### 1-7 財布が(Aに)盗まれた。【モノ主語受身、モノ主語の背後に被影響者が想定される】

The wallet was stolen by Andy.

### 1-8 壁に絵が掛けられている。【モノ主語受身、結果状態の叙述】

?A picture is (being) hung on the wall.

この文は不自然に感じられる。

[A picture is on the wall.]

[There is a picture on the wall.]

1-9 AはBに／から愛されている。【感情述語の受身、特に動作主のマーカーに注目】

Andy is loved by Bob.

1-10 AはBに／から「...」と言われた。【伝達動詞の受身、特に動作主のマーカーに注目】

[Bob said "...” to Andy.]

発言の内容如何に関わらず伝達動詞においては用いることのできる受身表現はないと思われる。なお査読者の方からは、動詞が‘tell’の場合には受身文も可能ではないか (I was told “No” by John. や It was told to me by John. のような例において)、という意見をいただいた。

?Andy was said no to by Bob.

発言の内容がno (禁止) ならば、クオテーションマークを用いずに例外的な受身表現を用いることができるように感じられる。COCAに“I was said no to”で例が1つ見いだされる。内省でも可能である。

1-10-a AさんはBさんに呼ばれて、今Bさんの部屋に行っています。

Andy was called by Bob, and is in Bob’s room now.

1-10-b BさんがAさんを読んで、Aさんは今Bさんの部屋に行っています。

Bob called Andy, and Andy is in Bob’s room now.

## 2. 「アスペクト」(語研論集 第15号)

2-1 ~さん(固有名詞)は／あの人はもう来た。

Andy already came.

2-2 ~さん(固有名詞)は／あの人はもう来ている。

Andy has already come.

2-3 ~さん(固有名詞)は／あの人はまだ来ていない。

Andy hasn’t come yet.

2-4 ~さん(固有名詞)は／あの人はまだ来ない。

2-3と同じ

2-5 ~さん(固有名詞)は／あの人はもう(すぐ)来る。

Andy will come soon.

2-6 (あ!) ~さんが来た! [その人が来るのに気づいた場面での発話]

(Oh!) Andy has come!

文法的には不自然ではないが、表現としては硬く、あまり用いない。来ることを予想していた場合と

予想していなかった場合の双方について使用可能である。

(Oh!) Andy is here!

同じく予想していた場合と予想していなかった場合の双方について使用可能である。

2-7 昨日～さんが来たよ。

Andy came yesterday.

2-8 昨日～さんは来なかったよ。

Andy didn't come yesterday.

2-9 (私は) あのリンゴをもう食べた。

I already ate that apple.

2-10 私はあのリンゴをまだ食べていない。／私はあのリンゴをまだ食べない。

I haven't eaten that apple yet. / I won't eat that apple.

スラッシュの前は「私はあのリンゴをまだ食べていない。」の訳であり、スラッシュの後ろは「私はあのリンゴをまだ食べない。」の訳である。

2-11 あの人は今 (ちょうど) そのリンゴを食べています／食べているところです。

He's eating that apple just now.

2-12 窓が開いている／窓が開いていた。

[The window is open. / The window was open.]

この“be + open(adj.)”を用いるのがふつうである。

The window is opened. / The window was opened.

これは“be + 過去分詞”の形で、最も日本語の「開いている」に近い表現ではあるが、少し硬い感じがする。

The window has been opened. / The window had been opened.

過去形の方は、回想で「そのとき窓が開けられた。」の意味にとることができるので、“The window had been open.”の方が好まれる。

The window is left open. / The window was left open.

行為者の存在を含意する。ただし、「開かれた痕跡はあるが、今は閉じられている」とも取れるため、「開けてある」という意味は確定できない。

The window has been left open. / The window had been left open.

やはり行為者の存在を含意する。過去形の方は、回想で「そのとき窓は開け放ったままであった。」という意味にとることができるので、後の“The window had been left open.”の方が好まれる。

{The window is opening. / The window was opening.}

「窓がひとりでに開く動作の途中にある。」の意。英語の open は進行形を用いると動作の途中であることを示す。

2-13 私は毎朝新聞を読む／読んでいる。

I read the newspaper every morning.

read は現在形の/i:ɪd/である。

[?I'm reading the newspaper every morning now.]

「私は今は毎朝新聞を読むようになっていて」の訳である。習慣のアスペクトでも、以前と比較して新たな習慣がついていて、それを継続している、という状況では進行形を用いることができるように思われる。

2-14 あなたは（あなたの）お母さんに似ている。

You look like your mother.

You resemble your mother.

現在形を用いる。

2-15 私はその頃毎日学校に通っていた。

I used to go to school every day (back then).

I went to school every day back then.

「その頃」のような、過去と現在を対比する副詞があった場合には単純な過去形でもよい。

2-16 私は～に（大きな街の名前など）行ったことがある。

I have been to New York.

進行形は用いない。

2-17 やっとバスは走り出した／走り始めた。[開始]

Finally, the bus began moving.

Finally, the bus began to move.

2-18 昨日彼女はずっと寝ていた。[長時間継続]

She slept all day yesterday.

[She was asleep all day yesterday.]

She was sleeping (all day) yesterday.

過去進行形を用いれば、「ずっと」を意味する副詞がなくても可能。ただし、副詞を用いたほうが確実に文意を表現できる。

2-19 私はそれをちょっと食べてみた。[試行]

I tried eating it a bit.

2-20 あの人はそれ（ら）をみんなに分け与えた。[多くの（間接）目的語に対する多回のアスペクト]  
He gave them to everyone.

2-21 さあ、（私たちは）行くよ！  
Let's go!

2-22 地球は太陽の周りを回っている。[恒常的な真理]  
The earth goes around the sun.

2-23 あの木は今にも倒れそうだ。[将然相]  
That tree is about to topple.

2-24 （私は）あやうく転ぶところだった。[未実現の事態]  
I was almost about to trip.

2-25 明日客が来るので、パンを買っておく。[準備]  
[We will have guests tomorrow, so I will buy some bread.]  
「～ておく」に該当する表現は特に見当たらない。

{Did you (remember to) buy some bread?}

「パンを買っておいた？」の訳。過去形にしても「～ておく」に該当する表現は見当たらない。「パンを買うのを忘れなかった？」などの表現で代替するのではないだろうか。

2-26 （私は）～に（街とか市場とか）行ったとき、この袋を買った。  
I (had) bought this bag when I went to Tokyo.

had を用いることで「買ったのだった」のような、買った経験そのものを重視するニュアンスが伝わる。2-27, 2-28 についても同様。

2-27 （私は）～に（街とか市場とか）行く時／行く前に、この袋を買った。  
I (had) bought this bag when going to Tokyo.

I (had) bought this bag upon going to Tokyo.

「行く際」という時点を明確にする表現である。

/ I (had) bought this bag before going to Tokyo.

「行く前に」という時点を明確にする表現である。

2-28 （私は）彼が市場でこの袋を買ったのを知っていた。  
I knew he (had) bought this bag in this market.

### 3. 「モダリティ」(語研論集 第16号)

#### 3-1 (その仕事が終わったら) もう帰ってもいいですよ。【許可】

You may go home (when you are done with that work).

You can go home (when you are done with that work).

#### 3-2 (腐っているから、あなたは) それを食べてはいけない／それを食べるな。【禁止】

You may not eat that.

許可を与えない、という言い方である。

You must not eat that.

強制力の強い言い方である。

Do not eat that.

You can not eat that.

フランクな言い方である。

#### 3-3 (遅くなったので) 私たちはもう帰らなければならない。【義務】

We must go home now.

We have to go home now.

#### 3-4 (雨が降るそうだから) 傘を持って出かけたほうがいいよ。【推奨】

You should take an umbrella.

You better take an umbrella.

#### 3-5 歳をとったら、子供の言うことを聞くべきだ／聞くものだ。【評価的義務】

You (People) should listen to your(their) children when you(they) get old.

3-4 での意味とあまり違いが感じられなかった。英語では一般論の主語も you を用いるのでほとんど同じ形になってしまう。

#### 3-6 お腹が空いたので、(私は) 何か食べたい。【希望】

I'm hungry, so I want to eat something.

#### 3-7 私が持ちましょう。【意志】

I will take that.

#### 3-8 じゃあ、一緒に昼ご飯を食べましょう。【勧誘】

Let's eat lunch together.

#### 3-9 一緒に昼ご飯を食べませんか？【相手の意向が不明な場合の勧誘】

Shall we eat lunch together?

Do you want to eat lunch together?

3-10 明日、良い天気になるといいなあ。／明日は良い天気になってほしいなあ。【希望】

I wish it would be sunny tomorrow.

3-11 (私はここで待っているから) すぐにそれを持って来なさい。【命令】

(I will wait here.) Bring it here immediately.

3-12 そのペンをちょっと貸していただけませんか? 【懇願】

Could(Would/Can/Will) you lend me that pen?

用いる助動詞によって丁寧さや、「貸すことができる」と「貸す気持ちがある」のような意味の対立が生まれる。

3-13 あの人は中国語が読めます。／あの人は中国語を読むことができます。【能力可能】

He can read Chinese.

3-14 明かりが暗くて、ここに何が書いてあるのか、読めない。【状況可能】

I can't read what is written here because the light is so weak.

3-15 (朝早く出発したから) 彼らはもう着いているはずだ／もう着いたに違いない。【確信】

They should have arrived by now.

They must have arrived by now.

They probably have arrived by now.

助動詞ではなく副詞を用いた場合の表現である。

3-16 (あの人は) 明日はたぶん来ないだろう。【推量】

He probably will not come tomorrow.

副詞を使って推量を表す表現である。

{He would come tomorrow.}

「彼は明日来るだろう。」に対する、より直訳に近い文である。

??He would not come tomorrow.

上の文を否定形にすると非常に不自然に感じる。“would not”の「来る意志がなかった」という意味が強く感じられ、未来の推量とはミスマッチになるように思われる。

3-17 彼らはまだ来ないなんて、きっと途中で車が壊れたんじゃないか。【疑念】

They haven't come yet, their car must have broken down.

査読の方からは、They haven't come yet, so their car ... のように何か接続詞的なものが必要ではないか、というコメントをいただいた。

3-18 (昼間だからあの人は家に) さあ、いるかもしれないし、いないかもしれない。【可能性】

I don't know... He may be there, but he may not be there.



- 3-19 (額に触ってみて) どうもあなたは熱があるようだ。【視覚／聴覚以外の感覚による判断】

It seems you have fever.

- 3-20 (天気予報によれば) 明日は雨が降るそうだ。【伝聞】

It's going to rain tomorrow.

単純な未来形を用いてしまう場合が多い。

I heard it's going to rain tomorrow.

伝聞の意味を正確に伝えるなら「～と聞いた」と表現するほかはないように思われる。

- 3-21 もしお金があつたら、あの車を買うんだけれどなあ。【反実仮想】

If I had money, I would buy that car.

- 3-22 もしあなたが教えてくれていなかったら、私はそこにたどり着けなかったでしょう。【反実仮想過去】

If you hadn't told me, I wouldn't have gotten there.

- 3-23 (あの人は) 街へ行きたがっている。【3人称の主体による希望】

He's wanting to go to the city.

話し手による観測であることを強調した場合に使う表現である。

He wants to go to the city.

日本語とは異なり、3人称を主語とした文でもそのまま want を使うことができる。

- 3-24 僕にもそれを少し飲ませろ。【1人称命令】

Let me drink that a bit.

- 3-25 これはあの人に持って行かせろ／持って行かせよう。【3人称命令】

Have him bring that. / Let's have him bring that.

Make him bring that. / Let's make him bring that.

- 3-26 そのテーブルの上のお菓子は後で食べなさい。【遠未来命令形】

Eat the snack on the table afterwards.

副詞を用いる以外には普通の命令形と特に変わりはない。

- 3-27 もっと早く来ればよかった。【反実仮想】

If only I had come earlier...

- 3-28 あなたも一緒に行ったら (どうですか) ? 【脱従属化】

What if you go together?

Why don't you go together?

3-29 オレがそんなこと知るか！【(疑問詞を含まない) 反語】

How would I know (about that)!

3-30 これを作った(料理した)のは、お母さんだよね? / いいえ、私が作ったのよ。【付加疑問】

Your mother made this, didn't she? / No, I made it.

It's your mother who made this, isn't it? / No, it's me.

#### 4. 「ヴォイス」(語研論集 第17号)

4-1-a (風などで) ドアが開いた。【自動詞と他動詞の対立・自動詞による表現】

The door opened.

4-1-b (彼が) ドアを開けた。【自動詞と他動詞の対立・他動詞による表現】

He opened the door.

4-1-c (入り口の) ドアが開けられた。【自動詞と他動詞の対立・他動詞の受け身】

The door was opened.

4-1-d ドアが壊れた。【自動詞と他動詞の対立】

The door broke.

4-2 私は(自分の) 弟を立たせた。【自動詞の使役】

I made my brother stand up.

I had my brother stand up.

4-3 私は(自分の) 弟に歌を歌わせた。【他動詞の使役】

I made my brother sing a song.

I had my brother sing a song.

4-4-a (遊びたがっている子供に無理やり) 母は子供をパンを買いに行かせた。【強制使役】

The mother made her child go buy some bread.

4-4-b (遊びに行きたがっているのを見て) 母は子供に遊びに行かせた。【許可使役】

The mother let her child go play.

4-5-a 私は弟に服を着せた。【他動詞による表現】

I dressed my brother.

「(直接目的語) に服を着せる」という動詞である dress を用いた表現である。「(間接目的語) に(直接目的語: 服) を着せる」という表現で、直接手を下して服を着せる意味を含意したものには思い当たらなかった。

4-5-b 私は弟にその服を着させた。 【自動詞の使役】

I made my brother wear the clothes.

完全には間接的な行為であることを排他的に含意できないが、特に詳しい説明がなければ間接的であると判断される。

4-6 私は弟にその本をあげた。 【やりもらい、(話者から見ての) 授恩恵と受恩恵の違い】

I gave my brother the book.

4-7-a 私は弟に本を読んであげた。 【やりもらい、(話者から見ての) 授恩恵と受恩恵の違い】

I read my brother a book.

恩恵の授受に対する特別な表現は見当たらない。

4-7-b 兄は私に本を読んでくれた。 【やりもらい、(話者から見ての) 授恩恵と受恩恵の違い】

My brother gave me a book.

やはり恩恵の授受に対する特別な表現は見当たらない。

4-7-c 私は母に髪を切ってもらった。 【テモラウ】

I had my mother cut my hair.

4-8-a 私は(自分の)体を洗った。 【再帰】

I washed my body.

少し不自然である。体全体を洗うことを wash では表現しづらいように感じられる。

I bathed.

「風呂に入る」「シャワーを浴びる」「水浴びをする」をすべて bathe で表現できるため、wash ではなくこちらで表現した方がよいと考えられる。

4-8-b 私は手を洗った。 【再帰】

I washed my hands.

4-8-c 彼は手を洗った。 【再帰】

He washed his (own) hands.

自らの手ではない解釈が可能になってしまう場合 own を用いる。

4-9 (自分のために) 私はその本を買った。 【自利態】

I bought myself the book.

I bought me the book.

上の文よりも若干非規範的な感じがする。COCA では“I bought myself”は20例であるのに対し、“I bought me”は5例と少ない。

4-10 彼らは(／その人たちは)(互いに)殴り合っていた。 【相互】

They were hitting each other.

4-11 その人たちは（みんな一緒に）街へ行った。 【衆動】

They (all) went to the city together.

4-12 その映画は泣ける（その映画を見ると泣いてしまう）。 【自発】

The movie makes you cry.

使役を用いる。

4-13-a 私は卵を割った。 【意志／無意志】

I cracked the egg open.

4-13-b （うっかり落として）私はコップを割った／割ってしまった。 【意志／無意志】

[I broke the glass.]

他方、下記の文は「私はコップを（故意に）割った。」の訳である。

I (accidentally) broke the glass.

4-14-a きょう私はコーヒーを飲みすぎて（飲みすぎたので）眠れなかった。 【随意の不可能と不随意の不可能】

Yesterday, I drank too much coffee and couldn't sleep.

4-14-b きょう私は仕事がたくさんあって（たくさんあったので）眠れなかった。 【随意の不可能と不随意の不可能】

Yesterday, I had too much work and couldn't sleep.

4-15 私は頭が痛い。 【全体と部分・主体・一時的】

I have a headache.

My head hurts.

直訳すると「私の頭が痛む。」のような表現である。

4-16 彼女は髪が長い。 【全体と部分・主体・恒常的】

She has long hair.

Her hair is long.

4-17-a 彼は（別の）彼の肩をたたいた。 【全体と部分・対象・接触／結果状態が継続的】

He tapped his shoulder.

「自分の肩を叩いた。」と確実に区別したい場合には、“He tapped Andy's shoulder.”とすればよい。

4-17-b 彼は（別の）彼の腕をつかんだ。 【全体と部分・対象・接触／結果状態が継続的】

He grabbed his arm.

査読の方からは、He grabbed him on the arm. も一般的ではないかというコメントをいただいた。

4-18-a 私は彼がやって来るのを見た。 【知覚構文】

I saw him come.

4-18-b 私は彼が今日来ることを知っている。 【知覚構文】

I know he will come today.

4-19 彼は自分（のほう）が勝つと思った。 【引用文中の再帰】

He thought he (himself) would win.

「彼は（別の）彼が勝つと思った。」との混同の可能性がある場合には、himself を付加する。

4-20-a 私は（コップの）水（の一部）を飲んだ。 【部分的に及ぶ動作と全体に及ぶ動作】

I drank some of the water in the glass.

“I drank the water in the glass.” では部分とも全体とも断定できない。

4-20-b 私は（コップの）水を全部飲んだ。 【部分的に及ぶ動作と全体に及ぶ動作】

I drank all of the water in the glass.

やはり “I drank the water in the glass.” では部分とも全体とも断定できない。

4-21 彼は肉を食べない。 【恒常的な否定文】

He doesn't eat meat.

He won't eat meat.

「彼は今日は肉を食べない。」の意味を排除できないが、恒常的な否定を意味することもある。

4-22-a 今日は寒い。 【感覚述語・非人称文／感覚主体の存在が感じられない、より客観的な表現】

It's cold today.

4-22-b 私は（何だか）寒い（私には寒く感じる）。 【感覚述語・非人称文／斜格主語】

I feel cold.

4-23 人がとても多かったことに私は驚いた。 【（感情主体が受動的である）感情述語】

I was surprised that there were many people.

4-24 雨が降り始めた。 【現象文・現場での直接体験】

It started to rain.

It started raining.

Rain started to fall.

最も文法的に近いのはこの表現だが、「雨が降る」の場合には主語を it とする場合の方が一般的である。

4-25 この本はよく売れる。 【中間構文】

This book sells well.

5. 「所有・存在表現」(語研論集 第18号)

5-1 あの人は青い目をしている。／青い目の人・目が青い人 【一体的(譲渡不可能的)な、恒常的な所有(1)】

She has blue eyes.

Her eyes are blue.

She is blue-eyed.

/ a blue-eyed person

a person with blue eyes

5-2 あの女 {は／の} 髪が長い・あの女は長い髪をしている／長い髪の女・髪の長い女 【一体的な、恒常的な所有(2)】

She has long hair.

Her hair is long.

/ a woman with long hair

5-3 あの人には髭がある。／髭の男 【非普通所有物】

He has a beard. / a man with a beard

5-4 あの人には(見る)目がある。／見る目のある人 【慣用句的表現】  
(該当表現ナシ)

5-5 あの子は22歳だ。／22歳の人 【側面語のある表現(1)】

He is 22 years old. / a 22-year-old person

“a 5 year-old”のように、子供であれば child などなしで「五歳児」を表現できる。

5-6 あの子は優しい性格だ。／優しい性格の人 【側面語のある表現(2)】

He is kind.

He is kind-hearted.

?He has a kind heart.

この文は完全に非文であるとは言い切れない。

/ a kind person

a kind-hearted person

5-7 あの子は背が高い。／背の高い人 【側面語のある表現(3)】

He is tall. / a tall person

5-8 あの子は背が190センチもある。【側面語のある表現(4)、属性数量詞構文】

He is 190cm tall.

5-9 その石は四角い形をしている。／四角い（形の）石【側面語のある表現(5)】

The stone is square. / a square stone

?The stone has a square shape.

この文も完全に非文であるとは言い切れない。

5-10 あの人には才能がある。／才能のある人【属性】

He has talent. / a man with talent

5-11 あ的人是病気だ。／あ的人是熱がある。／病気の人【一時的属性】

He is sick. / He has fever. / a sick person

5-12 あ的人是青い服を着ている。／青い服の男【衣服等(1)】

He is wearing blue clothes.

/ a man with blue clothes

a man in blue

5-13 あ的人是メガネをかけている。／メガネの男【衣服等(2)】

He is wearing glasses. / a man with glasses

5-14 あの人には妻がいる。／既婚の人・妻のいる人【親族の所有(1)】

He has a wife.

He is married.

/ ?a man with a wife

不可能な構成ではないようだが、多くの場合“a man with a wife and three children”“a man with a wife of 65 years”のように、妻も子供もいる場合や、妻について追記したいことがある場合に用いられているように感じる。

a married man

5-15 あの人には3人子供がいる。／3人の子持ちの人・あの人の子供3人の子供／妊娠している女性【親族の所有(2)】

He has three children.

/ a man with three children

/ a pregnant woman

5-16 タコには足が8本ある。【普遍的な事実】

An octopus has eight legs.

Octopi(Octopuses) have eight legs.

5-17 その飲み物にはアルコールが入っている。／アルコール入りの飲み物【ともに無生物、含有物】

That drink has alcohol in it.

That drink contains alcohol.

/ a drink with alcohol in it.

液体の場合、中に混ざっていることを明示しなくてはならないように感じられる。

a drink containing alcohol

5-18 あの人はお金を持っている。／お金持ちの人【もっとも一般的な所有、やや恒常的】

That man has money.

額によらずお金を持っている、ととることもできるが、一般的にはわざわざ言及している時点で「お金持ちである」と解釈できるように感じる。

/ a man with money

“a rich man” とする方が一般的である。

5-19 おまえのところには犬がいるか？／犬のいる人【所有、やや恒常的、所有物は有生・家畜】

Do you have a dog?

/ a man with a dog

この表現だと、文脈によっては同じ場所に人と犬がいるだけで、所有関係は明示されない可能性がある。

a man who has a dog

5-20 おまえは（自分の）ペンを持っているか？／ペンを持っている人【一時的携帯物・自分のもの】

Do you have a pen?

Do you have your (own) pen?

自分のペンを持っているかを明確に問題にしたいときに用いる表現である。

/ a man with a pen

a man who has a pen

5-21 あの人は（誰か別の人の）ペンを持っている。【一時的携帯物・他人のもの】

He has somebody else's pen.

5-22 あの人は運がいい。／幸運な人【抽象的・一時的所有物】

He has good luck.

“He is lucky.” よりも has(現在形) を用いることによって恒常的に運がいいように感じられる。

/a man with good luck

“a lucky man” の方が冗長でなく、使いやすい

5-23 ここは石が多い。／石の多い土地【恒常的存在>状態／性質】

There are many rocks here.

?This land has many rocks.

非文ではないが、不自然である。

/ a land with many rocks

上の文よりは不自然でない。

// It rains much here.

不自然である。

/ a land with much rain



- 5-24 その部屋には椅子が3つある／3つ椅子のある部屋【非恒常的存在と数量】

There are three chairs in the room.

最も自然な表現である。

The room has three chairs (in it).

/ a room with three chairs (in it)

- 5-25 テーブルの上にスプーンがある。／スプーンのあるテーブル【存在・存在が新情報】

There is a spoon on the table. / the table with a spoon on it

- 5-26 そのスプーンはテーブルの上にある。／テーブルにあるスプーン【所在・場所が新情報】

The spoon is on the table. / the spoon on the table

- 5-27 そのペンは私のだ。・そのペンは太郎のだ。／私のペン・太郎のペン【所有物、属格のプロトタイプ】

That pen is mine(Taro's).

/ my(Taro's) pen

a pen of mine(Taro's)

- 5-28 昨日、学校で火事があった。／私は明日用事があります。【できごとの生起】

There was a fire at our school yesterday. / I have things to do tomorrow.

- 5-29 (この世には) お化けなんていない。【実在文】

Ghosts don't exist.

There are no ghosts.

上よりも実在の否定のニュアンスが薄れ、「ある特定の範囲には存在しない」と解釈されてしまう場合があるので、推奨できない表現である。

- 5-30 (そこには) 英語を話す人もいるが、話さない人もいる。【絶対存在文(1)】

Some speak English, but others do not.

- 5-31 私より英語ができる人は(ほかに／もっと) います。【絶対存在文(2)】

There are others who are better at speaking English than I am.

- 5-32 ちょっとあなたにお願いがあります。【抽象的なことの所有・発話内効力のある文】

There is something I want you to do.

- 5-33 冬の雨【時間】 東京の家【場所】

a winter rain / a house in Tokyo

- 5-34 彼の泳ぎ／犬の鳴き声／火山の爆発【Bが行為を示す名詞である場合の主体】

車の運転【同じく客体／対象】 ～の小説【Aの生産物であるB】

his swimming  
/ a dog's bark  
the bark of a dog  
/ a volcanic eruption  
an eruption of a volcano  
/ driving a car  
/ Andy's novel  
a novel (written) by Andy

5-35 Xさん（固有名詞）のお母さん【親族】 机の横に／机の前に／\*机に（来て！）【場所名詞】  
あの人の次【時間的關係】

Andy's mother  
the mother of Andy  
/ Come to my desk!

命令文として自然な「\*私の机に来て！」の訳である。

?Come beside my desk!

少し不自然。"Come to my desk!"で十分だからではないだろうか。

5-36 バラの花びら【種別】 果物のナイフ【用途】 紙の飛行機【材料・材質】  
チューリップの絵【内容】 花の匂い【産出物】 英文の手紙【表現形式(?)】  
日本語の先生【職種】 井戸の水【取得源】[「～の果物」のような産地でも良い]  
雨の日【状況】

a rose petal  
/ a fruit knife  
/ a paper airplane  
/ a picture of a rose  
/ the scent of a flower  
/ a letter in English  
/ a Japanese teacher  
?a teacher of Japanese  
a teacher who teaches Japanese

1 番目は「日本人の先生」と誤解する可能性が生じる。実際は強勢が Japanese につけば「日本語の先生」、teacher につけば「日本人の先生」となり、区別できる。二番目は不自然。三番目は冗長だが、文でしか伝わらないときは混同を防ぐために使用されることもある。

/ water from the well

出所によっては“sea water”“tap water”などになることもある。

/ a rainy day

5-37 妹の花子／社長の田中さん 【同格】

my sister Hanako  
my younger sister Hanako

my sister に形容詞がつく程度なら語順の交代やカンマは不要である。

{Hanako, my sister who lives in Tokyo}

my sister に関係節等がつく場合は Hanako を先にし、カンマを挟む必要が生じる。

/ Mr. Tanaka the president

Mr. Tanaka, the president (of our company)

カンマを挟んでもよい。the president に修飾節がつく場合はカンマが必須である。

5-38 となりの家の友達のお父さんの車のタイヤ（が昨日突然パンクしたんだって。） 【属格の連続使用】

The tire of the car my next-door friend's dad has

あらゆる文法的テクニックを用いて of や属格の連続使用を避けているが、なお不自然である。

my next-door friend's dad's car's tire

the tire of the car of the father of my friend that lives next door

上記の2つの句は、どちらもしつこく感じられる。

## 6. 「他動性」(語研論集 第19号)

### 6-1 【直接影響・変化】

6-1-a 彼はそのハエを殺した。

He killed the fly.

6-1-b 彼はその箱を壊した。

He destroyed the box.

6-1-c 彼はそのスープを温めた。

He warmed the soup.

この調査項目の主旨には関係ないが、動詞 warm は食品を温めるのに使うには不自然である。

6-1-d 彼はそのハエを殺したが、死ななかった。(言えるか? 言えないか?)

?He killed the fly, but it didn't die.

非常に特殊な状況(ハエが不死身であり、明らかに死んでいる状態から不可解に回復したなど)でしか使用できない。

### 6-2 【直接影響・無変化】

6-2-a 彼はそのボールを蹴った。

He kicked the ball.

6-2-b 彼女は彼の足を蹴った。

She kicked his leg.

6-2-c 彼はその人にぶつかった(故意に)。

He tackled him.

6-2-d 彼はその人とぶつかった（うっかり）。

He bumped into him.

6-2-c との違いは動詞の種類で表すしかないと思われる。

6-3 【知覚 2A vs. 2B】

6-3-a あそこに人が数人見える。

I see some people over there.

6-3-b 私はその家を見た。

I looked at the house.

{I saw the man.}

目的語を house とすると使いづらいが、自力で移動できるものが偶然視界に止まった場合に see を用いることができる。

6-3-c 誰かが叫んだのが聞こえた。

I heard somebody yell.

6-3-d 彼はその音を聞いた。

He heard that sound.

6-4 【(知覚 2A) 発見・獲得・生産など】

6-4-a 彼は（なくした）カギを見つけた。

He found the key (he (had) lost).

6-4-b 彼は椅子を作った。

He made a chair.

6-5 【追及】

6-5-a 彼はバスを待っている。

He is waiting for the bus.

6-5-b 私は彼が来るのを待っていた。

I was waiting for him to come.

6-5-c 彼は財布を探している。

He is looking for his wallet.

6-6 【知識 1】

6-6-a 彼はいろんなことをよく知っている。

He knows many things.

6-6-b 私はあの人を知っている。

I know that person.

6-6-c 彼はロシア語ができる。

He can speak Russian.

speak, write, read, understand など、より具体的な意味の動詞を用いるか、be good at Russian のように「上手である」と表現するほかにないように思われる。

6-7 【知識 2】

6-7-a あなたはきのう私が言ったことを覚えていますか？

Do you remember what I said yesterday?

6-7-b 私は彼の電話番号を忘れてしまった。

I forgot his phone number.

6-8 【感情 1】

6-8-a 母は子供たちを深く愛していた。

The mother loved her children very much.

6-8-b 私はバナナが好きだ。

I like bananas.

6-8-c 私はあの人を嫌いだ。

I hate that person.

6-9 【感情 2】

6-9-a 私は靴が欲しい。

I want a pair of shoes.

6-9-b 今、彼にはお金が要る。

He needs some money now.

6-10 【感情 3】

6-10-a (私の) 母は (私の) 弟がうそをついたのに怒っている。

My mother is angry that my brother told a lie.

My mother is angry at my brother for telling a lie.

My mother is angry with my brother for telling a lie.

6-10-b 彼は犬が怖い。

He is scared (afraid) of dogs.

6-11 【関係 1】

6-11-a 彼は父親に似ている。

He resembles his father.

He is similar to his father.

He looks like his father.

3つ目の文は、見た目の上での類似性のみを意味する。

6-11-b 海水は塩分を含んでいる。

Sea water has salt in it.

Sea water contains salt.

6-12 【関係 2】

6-12-a 私の弟は医者だ。

My brother is a doctor.

6-12-b 私の弟は医者になった。

My brother became a doctor.

6-13 【能力 1】

6-13-a 彼は車の運転ができる。

He can drive (a car).

6-13-b 彼は泳げる。

He can swim.

6-14 【能力 2】

6-14-a 彼は話をするのが上手だ。

He is good at giving a speech.

?He is good at speaking.

「話すこと」は基本的に人間に備わっている能力であると考えられ、「話すのが上手い」というのは不自然に感じられる。

6-14-b 彼は走るのが苦手だ。

He can not run fast.

?He is not good at running.

「早くは走れない」と表現するのが自然である。「走ること」も基本的に人間に備わっている能力であると考えられ、「走るのが上手ではない」というのは不自然に感じる。

6-15 【移動】

6-15-a 彼は学校に着いた。

He arrived at school.

6-15-b 彼は道を渡った／横切った。

He crossed the road.

6-15-c 彼はこの道を通った。

He took this road.

6-16 【感覚 1】

6-16-a 彼はお腹を空かしている。

He is hungry.

6-16-b 彼は喉が渇いている。

He is thirsty.

6-17 【感覚 2】 [完全な一項、もしくは 0 項の感覚述語である。]

6-17-a 私は寒い。

I'm cold.

6-17-b 今日は寒い。

It's cold today.

6-18 【(社会的) 相互行為 1】

6-18-a 私は彼を手伝った／助けた。

I helped him.

6-18-b 私は彼がそれを運ぶのを手伝った。

I helped him carry it.

6-19 【(社会的) 相互行為 2 (言語行動)】

6-19-a 私はその理由を彼に聞いた。

I asked him the reason.

6-19-b 私はそのことを彼に話した。

I spoke(talked) to him about it.

6-20 【再帰・相互】

6-20-a 私は彼と会った。

I met him.

7. 「連用修飾的複文」(語研論集 第20号)

7-1 彼はいつも新聞を読みながらご飯を食べる。【同時動作】

He always eats dinner while reading the newspaper.

{He always eats dinner while he reads the newspaper.}

同主語でなくても成立する。ただし動詞の形式が変化している。

7-2 (私は) 昨日は九時に家に帰って、少しテレビを見て (から)、寝ました。【継起的動作・物語的連鎖】

Yesterday I came home at nine, watched some TV, and went to bed.

7-6 のような表現と区別する必要がある場合、then をはさんで前後関係を明確にする。

7-3 (私は) 昨日階段で転んで、ケガをしてしまった。【継起：理由】

Yesterday, I fell on the stairs and got injured.

7-4 今日父は会社に行き、兄は大学に行った。【異主語】

Today my father went to work, and my brother went to college as always.

7-5 (あの人は) 今日は帽子をかぶって歩いていた。【付帯状況】

He was walking wearing a hat today.

?He was walking with a hat today.

「帽子とともに散歩をしていた」のように取れてしまい、少し不自然である。別の動詞と名詞を用いれば可能かもしれない。

{He was skiing with blue goggles today.}

上の文を異なる動詞と名詞で試してみた例である。上の文よりは意味がわかりやすくなっている。

7-6 (私は) 休みの日にはいつも本を読んだり、テレビを見たりしています。【並行動作】

I read books and watch TV on holidays.

7-2 や 7-3 とのニュアンスの違いは、必要ならばイントネーションや間のとり方によって区別するものと考えられる。

7-7 時間がないから、急いで行こう。【理由・カラ】

Since(Because) we don't have time, we must hurry.

We don't have time, so we must hurry.

カラとノデに対応する表現の差異は感じられなかった。7-8 も同じである。

7-8 昨日は頭が痛かったので、いつもより早く寝ました。【理由・ノデ】

Since(Because) I had a headache, I went to bed earlier than usual yesterday.

I had a headache, so I went to bed earlier than usual yesterday.



7-9 あの人は本を買いに行った。【趨向／移動の目的】

He went to buy a book.

{He will go buy a book.}

未来形、現在形、命令形などでは to を用いない。

7-10 (彼は) 外がよく見えるように窓を開けた。【目的・意図】

He opened the window so (that) he could see the scenery well.

7-11 ここでは夏になると、よく雨が降ります。【恒常的条件】

When it becomes summer, it often rains here.

7-12 窓を開けると、冷たい風が入って来た。【確定条件・生起】

When I opened the window, a cold wind blew in.

7-13 坂を上ると、海が見えた。【確定条件・発見】

When I got to the top of the hill, I saw the sea.

7-14 明日雨が降ったら、私はそこに行かない。【仮定条件】

If it rains tomorrow, I won't go there.

7-15 もっと早く起きればよかったなあ。【反実仮想】

If only I had woken up a little earlier...

7-16 あんなところへ行かなければよかった。【反実仮想・前件否定】

I shouldn't have gone to such a place.

7-17 1に1を足せば、2になる。【一般的真理】

If you add one and one, you get two.

条件形式も使用可能である。

7-18 駅に着いたら電話をしてください。【仮定条件＋働きかけのモダリティ】

Please make a call when you arrive at the station.

7-19 日曜日になったら、みんなで公園に行きたいなあ。【仮定条件＋願望】

I want to go to the park on Sunday.

「日曜日になる」の直訳がそもそもとても言いづらいように感じられる。

{I want to go to Japan when I get older.}

「大きくなったら」のような表現に変えることで when が使用可能になる。

7-20 明日雨が降ったら困るなあ。【心配】

It would be a bother if it would rain tomorrow.

7-21 家に来るなら、電話をしてから来てください。【時間的前後関係に則していないナラ条件文】

Call me first if you want to come.

if節は時間的前後関係の逆転を許さず、wantを挟んで前後関係を無理やり調整する必要があるように感じる。

Call me first if you are going to come.

未来形を用いることも可能である。

7-22 (もうすぐベルが鳴るので) 鳴ったら、教えてください。【予想を伴った条件文】

Tell me when the bell rings.

7-23 (もしかしたらベルが鳴るかもしれないので) もし鳴ったら、教えてください。【予想を伴わない条件文】

Tell me if the bell rings.

7-24 働かざるもの食うべからず。／働かない者は、食べるべきではない。【相関構文】

(One) Who does not work should not eat.

7-25 もう少しお金があったらなあ。【言いさし・願望】

If only I had more money...

7-26 これも食べたら? 【言いさし・提案】

How about eating this?

7-27 (やりたいなら自分の) 好きなようにやれば? 【言いさし・つき放し】

[Do as you like.]

文法的にはこれが一番近いが意味的にはあまりつき放したニュアンスが感じられない。なお 7-26 も 7-27 も英語では言いさし (insubordination) では表現されていない。

7-28 このコップは落としても割れない。【仮定的な逆接】

This glass does not break when dropped.

7-29 このリンゴは高かったのに、ちっとも甘くない。【アクチュアルな逆接】

Though it was expensive, this apple was not sweet at all.

7-30 彼の家に行ってみたけれども、彼はいなかった。【逆接3】

I went to his house, but he was not there.

7-31 あの人に来るまで、私はここで待っています。【時間的期限[1]】

I will wait here until he comes.

7-32 あの人に来るまでに、食事を作っておきますよ。【時間的期限[2]】

I will prepare a meal before he comes.

8. 「情報構造と名詞述語文」(語研論集 第21号)

8-1 えっ、A (固有名詞) が来たの? / いや、A じゃなくて B が来たんだ。【対比焦点 (主語)】 (例えば、昨日の集まりに珍しくやって来た人についての会話で)

Wait, Andy came? / No, not Andy, but Bob.

8-2 誰が来たの? / A が来たよ。【WH 焦点 (主語)・WH 応答焦点 (主語)】

Who came? / Andy (did).

8-3 A のほうが大きいんじゃないの? / いや、A じゃなくて、B のほうが大きいんだよ。【YesNo 疑問・形容詞述語応答焦点】

Isn't Andy taller? / No, not Andy, but Bob.

8-4 (電話で) どうしたの? / うん、今、お客さんが来たんだ。【文焦点 (自動詞文)】

What happened? / Uh, somebody's here.

8-5 あの子供が A を叩いたんだって! / いや、A じゃなくて、B を叩いたんだよ。【対比焦点 (目的語)】

That child hit Andy! / No, not Andy, but Bob.

8-6 赤い袋と青い袋があるけど、どっちを買うの? / (私は) 青い袋を買うよ。【対比焦点 (目的語、特に「どっち」という対比的な疑問語の場合)】

There is a red bag and a blue bag, which will you buy? / I'll buy the blue one.

8-7 A はどこですか? / A は朝からどっかへでかけたよ。【述語焦点】 (例えば、朝少し遅く起きて来た A の父親が、姿の見えない A について母親に尋ねている場面で)

Where is Andy? / Andy went somewhere in the morning.

8-8 (あの子供は) 誰を叩いたの? / (あの子供は) 自分の弟を叩いたんだ。【WH 焦点 (目的語)・WH 応答焦点 (目的語)】

Who did he hit? / He hit his brother.

8-9 (電話で) どうしたの? / うん、A が (自分の) 弟を叩いたんだ。【文焦点 (他動詞文)】 (例えば、電話の向こうで子供の泣き声がかきたのを聞いての発話)

What happened? / Uh, Andy hit his brother.

8-10 あのケーキ、どうした? / (ああ、あれは) A が食べちゃったよ。【目的語主題化、主題 (目的語) の継続性 いわゆる pro-drop 言語の可能性】

What happened to the cake? / Andy ate it.

8-11 私が昨日お店から買ってきたのはこの本だ。【分裂文】

It's this book that I bought from the store yesterday.

8-12 あの人は先生だ。この学校でもう 20 年働いている。【措定文 主題（名詞述語文の主語）の継続性 いわゆる pro-drop 言語の可能性】

That man is a teacher. He has been working in this school for 20 years now.

口語では、“been working here for 20 years now.” のように表現することも可能である。ただし社会的威信のある話し方ではない。

8-13 彼のお父さんは、あの人だ。【倒置同定文】

His father is that man.

8-14 あの人が彼のお父さんだ。【同定文】

That man is his father.

8-15 あさってってというのはね、明日の次の日のことだよ。【定義文】

“Asatte” is the day after tomorrow.

8-16 （何人かが入った喫茶店で注文を聞かれて）私はコーヒーだ。【ウナギ文】

[I'll have coffee.]

ウナギ文に該当する表現は思い当たらなかった。

8-17 [(注文した数人分のお茶が運ばれてきて) どなたがコーヒーですか?との問いに] コーヒーは私だ。【逆行ウナギ文】

[I ordered coffee.]

同じく、逆行ウナギ文に該当する表現は思い当たらなかった。

8-18 その新しくて厚い本は（値段が）高い。【形容詞述語文 修飾・並列・述語】

That new and thick book is expensive.

8-19 （砂糖入れを開けて）あっ、砂糖が無くなっているよ！【意外性（mirativity）】

Hey, we're out of sugar!

8-20 午後、誰かに会うはずだったなあ。誰だったっけ？ あっ、そうだ、～君だったな。【思い出し】

I was supposed to meet someone in the evening, who was it? Oh, I remember. It was Andy.

## 9. 「情報標示の諸要素」(語研論集 第 22 号)

9-1 この土地は野菜がよく育つ。だから高い値段で売れるだろう。【統語的に動詞の必須項ではない名詞の統語的軸項としての機能】

Vegetables grow well on this land. So, it will sell at a high price.

9-2 私は頭が痛い。だから今日は休む。【話し手のなわ張り内・聞き手のなわ張り外、統語的軸項としての機能】

My head hurts. So, I will be absent today.

9-3 あの**人**だけ、時間通りに来た。【限定】

Only he came on time.

9-4 これはここで**しか**買えない。【限定・否定との共起】

This can only be bought here.

9-5 その家にいたのは子供**ばかり**だった。【限定・多数】

There were only children in the house.

9-6 次回**こそ**、失敗ないようにしよう。【限定・強調】

[Let's try not to fail next time.]

「こそ」に該当する表現は思い当たらなかった。その代わり、"next time"を強調するなどしてニュアンスを表すように思われる。

9-7 疲れたね、お茶**でも**飲もう。【反限定・例示】

That was tiring, let's drink tea or something.

このように言えば、かなりくだけた表現になる。

9-8 水**さえ**あれば、数日間は大丈夫だ。【極端・意外】

[If we have water, we'll be OK for several days.]

「さえ」に該当する表現は思い当たらなかった。

{Even if we only had water, we'll be OK for several days.}

「水しかなくても」という表現を用いて類似のニュアンスを伝えることは可能である。ただしこの場合、水以外のものもある、あるいはあることが期待される状況だと感じられ、日本語の例文で表されるニュアンスとは少しずれてしまう。

9-9 小さい子供**まで**、その仕事の手伝いをさせられた。【極端・意外】

Even small children were forced to work on the job.

9-10 私はお金**なんか**欲しくない。【反極端・低評価】

[I don't want money.]

「なんか」に該当する表現は思い当たらなかった。その代わり、"money"を強調することで、「お金などではなく、他の何かが欲しいのだ」というニュアンスを伝えることができる。

9-11 自分の部屋**ぐらい**、自分できれいにしなさい。【反極端・最低限】

Clean your own room at least by yourself.

“at least” のかかる句を特定することが難しくなる。ただしこの場合、“by yourself” は既に最低限で

あるため “at least” がかかるとは考えづらいため、意味は通る。また、“own room” を強調することでも意味が明確になる。

9-12 私にもちょうだい。【類似・累加】

Give it to me too.

9-13 お父さんもう帰って来たね。お母さんは？【反類似・対比（疑問）】

Dad has come home already. How about mom?

9-14 誰か（が）電話してきたよ。【特定未知（specific unknown）】

Someone called.

9-15 誰かに聞いてみよう。【非現実不特定（irrealis non-specific）】

Let's ask someone.

9-16 私のいない間に誰か来た？【疑問（question）】

Did anyone come while I was away?

9-17 誰か来たら、私に教えてください。【条件節内（conditional）】

If anyone comes, please tell me.

9-18 今日は誰も来るとは思わない。／今日は誰も来ないと思う。【間接（全部）否定（indirect negation）】

I don't think anybody will come today.

I think nobody will come today.

9-19 そこには今誰もいないよ。【直接（全部）否定（direct negation）】

Nobody is there now.

9-20 （それは）誰でもできる。【自由選択（free-choice）】

Anyone can do that.

9-21 そんなこと（は）、みんな知っているんじゃないか!？【自由選択を示す「みんな」】

Everyone knows that!

9-22 そんなもの、誰が買うんだよ!？ 誰も買うわけじゃないか! 【反語】

Who would buy such a thing!?! Nobody will.

9-23 君は英語がうまいね。【話し手のなわ張り内・聞き手のなわ張り内】

You are good at English.

9-24 君は退屈そうだね。【話し手のなわ張り外・聞き手のなわ張り内】

You seem bored.

9-25 明日も寒いらしいよ。【話し手のなわ張り外・聞き手のなわ張り外】

It seems like it will get cold again tomorrow.

10. 「否定、形容詞と連体修飾複文」(語研論集 第23号)

10-1 これは私の本ではない。【名詞述語文／コピュラ文の否定】

This is not my book.

This book is not mine.

直訳すると「この本は私のものではない。」となるような表現である。

10-2 この部屋には椅子がない。【存在文の否定】

This room does not have any chairs.

There are no chairs in this room.

10-3 この部屋には一つも椅子がない。【全部否定・モノ】

There aren't any chairs in this room.

There is not one chair in this room.

10-4 その部屋には誰もいない。【全部否定・ヒト】

There aren't any people in that room.

There is nobody in that room.

There is not one person in that room.

Nobody is in that room.

10-5 その本はこの部屋にない。【所在文の否定】

The book is not in this room.

10-6 この犬は大きくない。【形容詞文の否定】

This dog is not big.

10-7 この犬はあまり大きくない。【形容詞文の部分否定】

This dog is not so big.

10-8 この犬はあの犬より大きい。【比較級】

This dog is bigger than that one.

10-9 この犬がその犬たちの中で一番大きい。【最上級】

This dog is the biggest of the dogs.

10-10 今日のはあの人は来ない。【自動詞文の否定】

He will not come today.

- 10-11 あの人はその本を持って行かなかった。【他動詞文の否定】  
He did not take the book.
- 10-12 全ての学生が参加しなかった。／学生は全員参加しなかった。【数量の全部否定】  
No student participated.  
None of the students participated.
- 10-13 全ての学生が参加したわけではない。【数量の部分否定】  
Not all of the students participated.
- 10-14 (私は買わなかった。しかし、決して) 値段が高いというわけではない。【文の否定】  
It's not that the price is too high.
- 10-15 走るな！【禁止】  
Don't run!
- 10-16 大きな声を出すな！【他動詞文の禁止】  
Don't make a loud noise!
- 10-17 明日は雨は降らないだろう。【推量の否定】  
It would not rain tomorrow.
- 10-18 あの人に聞こえないように、小さな声で話してくれ。【目的節の否定】  
Speak quietly so that he doesn't hear.
- 10-19 私はあなたを怒らせようと思ってそう言ったんじゃない。【否定のスキープの調節】  
I didn't say it to make you angry.
- 10-20 私が昨日買った本はどこ (にある) ? 【内の関係の連体修飾節・目的語】  
Where is the book I bought (that) yesterday?
- 10-21 その本を持って来た人は誰 (か) ? 【内の関係の連体修飾節・主語】  
Who (was it that) brought this book?
- 10-22 この部屋が私たちの仕事をしている部屋です。【内の関係の連体修飾節・場所】  
This is the room (that) we work in.
- 10-23 足が一本折れたあの椅子はもう捨ててしまった。【内の関係の連体修飾節・所有者】  
I already threw away the chair with a broken leg.



10-24 ドアを叩いている音が聞こえる。【外の関係の連体修飾節】

I hear a knock on the door.

10-25 あの人が結婚したという噂は本当（か）？【外の関係の連体修飾節】

Is it true that he has married?

10-26 私はその人が来た時にご飯を食べていた。【時間節】

I was eating lunch when he came.

10-27 私はその人が待っている所に行った。【場所節】

I went (to) where he was waiting.

10-28 私はその人が走っていったのを見た。【補文節・視覚】

I saw him run away.

査読の方からは、I saw him running away. も可であろうというコメントをいただいた。その場合、一時性が高くなるという。

10-29 昨日の夜、私は彼らがしゃべっているのを聞いた。【補文節・聴覚】

Last night, I heard them talking.

10-30 私はその人が昨日ここに来たことを知っている。【補文節・知識】

I know (that) he came here yesterday.

10-31 (昨日) 彼は彼が今日ここに来たと言った。／(昨日) 彼は、「私は今日ここに来た」と言った。

【補文節・直接発話／間接話法】

He said (that) he came here yesterday. / He said, "I came here yesterday."

10-32 私はリンゴが (あの) 皿の上にあったのを食べた。【内在節・従主・主主】

I ate the apple (lying) on the plate.

10-33 私はネコが家に入ってきたのを捕まえた。【内在節・従主・主目】

I caught the cat coming into the house.

執筆者連絡先：kazamas@tufs.ac.jp

原稿受理：2020年12月14日